



2015.6.10 No.3

全釧路教職員組合

「教え子を戦場に送らない」～子どもたちに平和な未来を！

戦争法案について、国会での審議の様子がニュースや新聞でも連日報道されています。私たちは、目の前にいる子どもたちの平和な未来を守るためにも、戦争のできる国づくりを許さない声をあげ、広げていく取り組みを、今こそ進めていきましょう。

そこで、次のような取り組みを提起します。忙しい日々ではありますが、今が正念場です。それぞれの組合員が、できることに取り組んでいくことで、平和を求める声を大きく、広げていきましょう。

①憲法署名や抗議FAXに取り組みましょう

- ・各支部書記長から分会に届いているところもあると思います。
- ・FAXは、学校からは送ることができません。自宅から発送するか、本部へ持参し一括で送信します。

②駅前街頭宣伝行動に参加しよう

- ・毎週土曜日に、釧路駅前街頭宣伝行動を行っています。
- ・閣議決定直後には、43名が集まりました。
- ・時間は、13:00～13:30です。

③原水禁世界大会に、代表を送ろう

- ・今年は、被爆70年の節目の年です。戦争のできる国づくりを進める政府に対して、平和を求める声を広げていくためにも、原水禁大会への代表派遣をぜひ実現しましょう。

●取り組みの内容

- ・核廃絶署名(アピール署名)の取り組み
- ・代表派遣のためのカンパ集め

※これらの取り組みを、職場で、地域で、訴えていくことで、平和を求める声を大きく広げていきましょう。



裏面には、道教組、高教組のアピール文を載せました。法案について、平和について、私たちが改めて考え、声を上げていきましょう。

【声明】憲法原則を踏みにじる「戦争法制」の閣議決定に抗議する

北海道高等学校教職員組合連合会
全北海道教職員組合

安倍政権は5月14日、集団的自衛権行使を可能とし、自衛隊の海外派兵を制限なく可能とする「戦争法制」の閣議決定を強行しました。憲法原則を否定する重大な内容であるにもかかわらず、安倍首相が米議会演説で「夏まで」と公約し、会期を大幅延長したうえで今国会中の成立をめざしています。道高教組・道教組は、日本を「戦争する国」に転換させてしまう「戦争法制」の閣議決定に怒りをもって抗議するとともに、「戦争法制」の成立阻止に向けて全力をつくす決意を表明するものです。

閣議決定された「戦争法制」は、自衛隊を海外派兵するための恒久法「国際平和支援法」と、武力攻撃事態法など現行法の改正案10本を一括した「平和安全法制整備法案」からなるものです。歴代政府が、憲法9条のもとで否定せざるをえなかった集団的自衛権の行使を認めた昨年7月の閣議決定に従い、日本が直接武力攻撃を受けなくても、自衛隊が「いつでも」武力行使できるようになっています。また、「日本周辺」という地理的制限をなくして、世界中の「どこでも」自衛隊を派兵できるようになります。与党協議で確認されたとする「国会事前承認」もあくまで「原則」に過ぎず、国連決議などの「歯止め」も、武力攻撃事態法改正案による集団的自衛権行使には必要とされません。あらゆる派兵が「日本の平和と安全に資する」とされ、自衛隊が「切れ目なく」海外に派兵されることになります。

また、「戦争法制」は海外での戦争に自衛隊を派兵するだけでなく、国民一人ひとりを戦争に巻き込むものです。日本が相手国から反撃されるおそれがあれば、政府は「武力攻撃事態」と認定し、「有事法制」が発動されることになります。「有事」と判断されれば、自衛隊による土地の強制接収も行われ、病院やガソリンスタンドなども接収されてしまいます。ゲリラやテロが想定される原発地域では、住民の避難も開始されます。地方自治体や地方公務員は、「国民保護法」による警報の発令、住民の避難、避難住民の救援などに忙殺されることになります。

安倍政権は「戦争法制」によって「戦争する国」をつくと同時に、「戦争する国」を支える人材づくりをねらって「教育再生」をすすめています。「道徳の教科化」で特定の価値観を押し付け、「愛国心」の評価まで行おうとしています。また、教科書検定の基準を変えてまで、日本の過去の侵略戦争を『大東亜戦争』などと表記し、歴史の事実をゆがめる教科書を子どもたちに手渡そうとしています。

すべての教職員の皆さん

戦後、私たちは、侵略戦争に子どもたちをかりたてた痛苦の反省から、「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンを確立し、そのスローガンのもと運動をすすめてきました。いま、戦後70年守り続けてきた平和国家としての理念と評価を投げ捨て、「戦争する国」に向かうかどうかの歴史的岐路に立っています。この歴史の大きな岐路にあって、戦争をしない未来を次の世代に手渡す「大人として」の、そして何より「教職員として」の責任を果たすために、一人ひとりが声をあげ足を踏み出し、今できるあらゆることを行動にうつすよう訴えます。